

U.S. Indicators

発表日:2019年11月1日(金)

米国 19 年 10 月 ISM 製造業景気指数は小幅上昇

～ただし、水準は米製造業の縮小とGDPの1.6%成長への鈍化を示す～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

ISM製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
18/10	57.5	58.0	59.3	56.5	50.7	63.2	55.8	71.6	52.2	54.3
18/11	58.8	61.8	59.9	57.7	52.9	61.5	56.4	60.7	52.2	53.6
18/12	54.3	51.3	54.1	56.0	51.2	59.0	50.0	54.9	52.8	52.7
19/01	56.6	58.2	60.5	55.5	52.8	56.2	50.3	49.6	51.8	53.8
19/02	54.2	55.5	54.8	52.3	53.4	54.9	52.3	49.4	52.8	55.3
19/03	55.3	57.4	55.8	57.5	51.8	54.2	50.4	54.3	51.7	51.1
19/04	52.8	51.7	52.3	52.4	52.9	54.6	53.9	50.0	49.5	49.8
19/05	52.1	52.7	51.3	53.7	50.9	52.0	47.2	53.2	51.0	49.4
19/06	51.7	50.0	54.1	54.5	49.1	50.7	47.4	47.9	50.5	50.0
19/07	51.2	50.8	50.8	51.7	49.5	53.3	43.1	45.1	48.1	47.0
19/08	49.1	47.2	49.5	47.4	49.9	51.4	46.3	46.0	43.3	46.0
19/09	47.8	47.3	47.3	46.3	46.9	51.1	45.1	49.7	41.0	48.1
19/10	48.3	49.1	46.2	47.7	48.9	49.5	44.1	45.5	50.4	45.3

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

19年10月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、48.3と前月比0.5%ポイント上昇したが、市場予想の48.9を下回ったうえ、3カ月連続で製造業の縮小を示す水準にとどまった。米製造業活動は、世界景気の減速、トランプ政権による関税を利用した外交政策に伴う不確実性の高まり、関税引き上げを受けたサプライチェーンの見直し、ドル高、労働力不足等によって低下傾向を辿っている。そのようなもと、10月は、米国が予定していた中国に対する追加の関税賦課を見送ったほか、米中貿易協議が第1段階の合意に至るとの期待が高まった。もともと、引き続き企業から報告では、貿易政策に関する懸念が強く、国際貿易が依然として業界を超えた最も重要な問題と指摘された。

10月は、生産、入荷遅延が低下したものの、先行きの需要を示す新規受注、労働需要の強さを示す雇用、在庫が上昇した。ただし、新規受注は、輸出受注が大幅に上昇した影響で押し上げられており、国内受注の回復は鈍いとみられる。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、入荷遅延(前月比▲0.32%p)、生産(前月比▲0.22%p)が押し下げ寄与となった一方、在庫(前月比+0.40%p)、新規受注(前月比+0.36%p)、雇用(前月比+0.28%p)が押し上げ寄与となった。

サブ項目では、主要国・地域の製造業活動の縮小や、世界的な輸出の減少にもかかわらず、原油・石炭製品、木材製品、その他製造業、電気設備・部品、食品・飲料・タバコの拡大を受け、輸出受注DIは50.4と大幅に上昇し、輸出の回復を示唆している。一方、輸入DIは45.3に低下し、輸入の減少を示している。

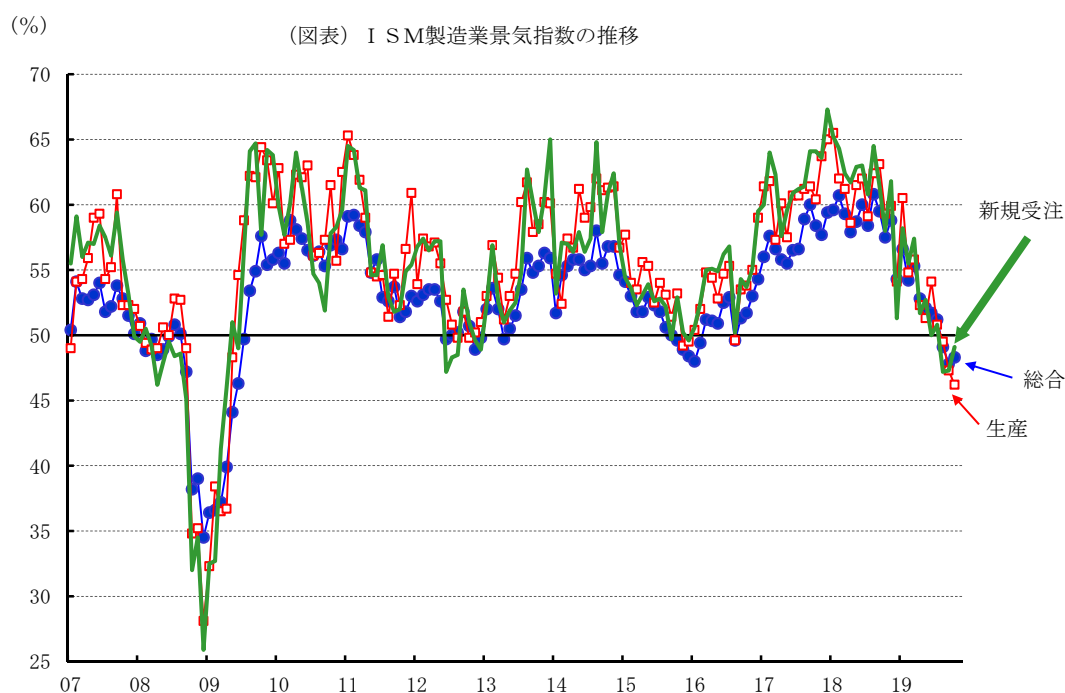
インフレ関連では、アルミニウム、苛性ソーダ、銅、ナイロン、スクラップ、鉄鋼製品などの価格下落によって、仕入価格が45.5と前月から4.2%p低下した。5か月連続で50を下回り、川上での物価下落圧力が強まっていることを示した。

10月の総合指数を構成する新規受注、生産、雇用、在庫、入荷遅延の全項目が拡大縮小の分岐点である50を下回り、ISM製造業景気総合指数は製造業の縮小を示す水準にとどまった。

また、10月に拡大した業種は18業種中5業種と限られた(9月に拡大した業種は18業種中3業種)。総合(全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)で拡大した業種は、家具・同関連、印刷・関連サポート活動、食品・飲料・タバコ、木材製品、コンピューター・電子機器の5業種と前月の3業種から増加した。食品・飲料・タバコが依然として最も強い産業部門だった。一方、縮小した業種は、一次金属、アパレル、繊維、輸送機器、プラスチック・ゴム、一般機械、化学製品、石油・石炭、電気設備・部品、加工金属、その他製造業、紙製品の12業種と前月の15業種から減少したものの、多くの業種が縮小した。輸送機器は最も弱い部門だった。なお、非鉄は変わらずとなった。

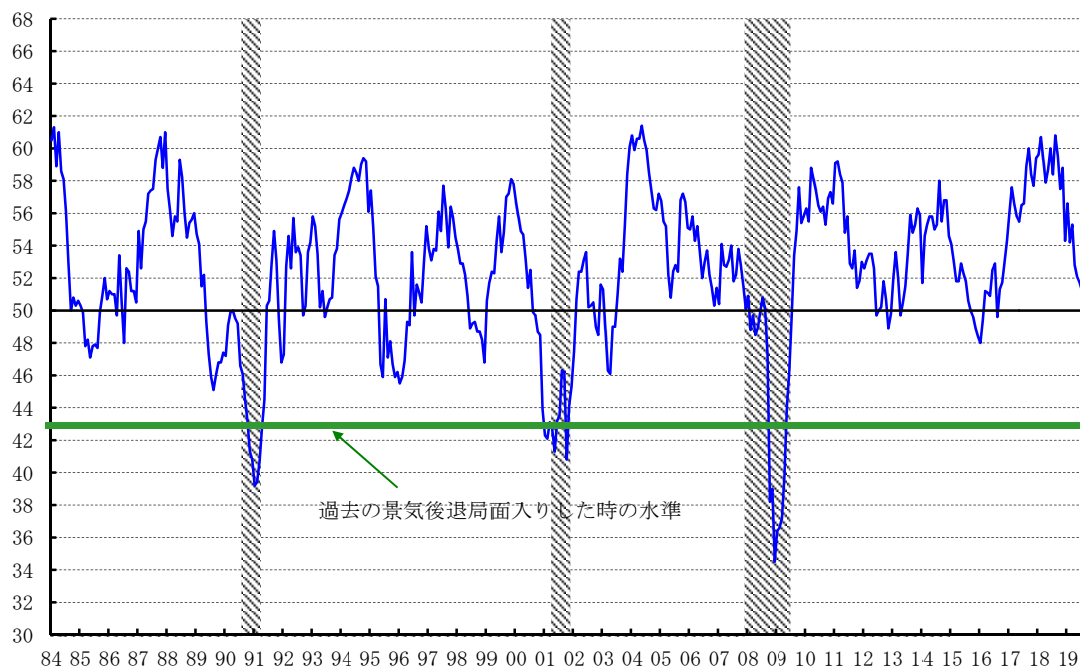
報告では、全般的な需要の鈍化や先行きの慎重な見方の増加が指摘された。業種別では、コンピューター・電子機器で需要の減少とコストの増加が指摘されたほか、自動車で販売の減少が持続していること、化学製品で世界中の多くの市場の需要が低下していることが報告された。また、拡大を続けている食品・飲料・タバコでは、貿易、関税、通貨の不確実性といった逆風によって、事業環境が困難になっていると報告された。

最後に、米経済全体とISM製造業指数の関係をみる。ISMによると10月の48.3という水準はこれまでのGDP成長率との関係から、実質GDPが+1.6%成長と潜在成長率の+1.8%程度を下回っていることを示すと指摘。これは、9、10月に米経済全体が減速していることを示唆している。



(出所) ISMデータより作成

ISM製造業景気指数の推移



(出所) ISM

(注) シャドー部は景気後退期。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

